

読む前に語と主語を確かめる

読み方ガイド 1 | 古文を根拠に即して読む

古文は、言葉の知識と文脈を組み合わせると、人物の行動や考えがつながります。

読みと意味を区別する

歴史的仮名遣いを直す問題は、読みを現代仮名遣いで示します。意味を答える問題や現代語訳とは別です。例「けふ」→「きょう」、「やうす」→「ようす」。読みを直しただけでは現代語訳になりません。

古語は場面に合わせる

「をかし」は趣がある、「うつくし」はかわいらしいなど、現代語と違う意味に注意します。一語に複数の意味がある場合は、対象・行動・前後の流れに合う意味を選びましょう。

動作ごとに誰かを補う

人物名が一度出ても、すべての動作が同じ人とは限りません。「見る」「言ふ」「帰る」の前に主語を補います。会話の始まり・終わりや敬語が切り替えの手がかりになります。

会話と出来事のつながりを読む

読み方ガイド 2 | 古文を根拠に即して読む

人物の思い込みと実際の出来事を分けることが、古文読解の大切な一歩です。

会話は話し手と聞き手をつなぐ

かぎかっこの前後にある「と言ふ」「と問ふ」に注目します。会話の中の「我」「おのれ」も、誰が話しているかで指す人が変わります。敬語だけで決めず、行動も確かめます。

原因と結果を一組にする

「～ば」「～て」「かくて」などの前後を読みます。理由を答える時は、結果の言い換えだけにせず、なぜその行動や判断に至ったかを書きましょう。

筆者の評価を探す

出来事の紹介の後に、筆者の感想や教訓が添えられることがあります。登場人物の発言と筆者の言葉を区別し、具体例と結論を対応させます。

記述と見直しの手順

読み方ガイド 3 | 古文を根拠に即して読む

答えは本文に基づいて書きます。

知っている話でも、掲載された本文と語注を優先しましょう。

現代語訳は内容を過不足なく

古語の意味を直し、必要な主語を補い、否定・禁止・疑問などを落とさず、自然な現代の文にします。本文にない人物の気持ちや出来事を足さないようにします。

抜き出しと説明を書き分ける

抜き出しは指定範囲・字数・表記を守ります。説明は同じ内容なら別の表現でもかまいません。字数は句読点・かぎカッコ・小さい仮名も1字です。

この教材の進め方

A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。まず本文と語注を読み、解答後に全文の現代語訳と照合します。間違いを「読み」「語の意味」「主語」「理由」「教訓」に分けて復習しましょう。